

第55回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 審査総評 審査委員 湯澤正信

今年度の応募件数は47件であった。今年は庭やランドスケープと一体に評価すべきと思われる建築物の応募が目立った。建築は敷地の上に建っており、周辺環境やランドスケープ無くしてはその建築の存在が考えられないことは当然のことではあるが、少なからぬ作品でその一体性が前面に押し出されており、現代が環境の時代といわれる所以を感じた次第である。

書類審査を経ての一次選考は、まず、全47件が審査対象としての資格があるかどうかの確認を行い、次に、投票と討論により現地審査対象の18件を選定した。

現地審査は幸い天候に恵まれ、5日間にわたり行われた。その後の2次選考では、まず、各委員から質疑や現地審査での印象の開陳が行われ、次に、投票と討論に移行した。活発な議論が行われ、最後に賞が選定された。結果は、最優秀賞1件、優秀賞6件、アピール賞2件となった。以下、各賞とされた作品についてコメントすることとする。

最優秀賞の「DNP創発の杜箱根研修センター第2」は、書類審査の段階で大変魅力的に感じたものの、何か書類からは読み取れないことが多く、実見することが楽しみに思われた作品であった。実際の空間は期待に違わない充実したものであり、この敷地や研修所のあり方が雄弁に語られていた。設計者は建築主側のチームと一体となって構想を練り、それに構造やランドスケープなどの様々な専門家が加わり、それぞれの独創性を発揮しながらコラボレーションしていった理想的ともいえる設計プロセスが存在していた。

次いで優秀賞について述べる。まず、「日産自動車グローバル本社」は、最優秀賞のものと同じく、建築主側のチームと十分な時間をかけ設計を練ったものである。世界的な企業の本社として、そして人々のワークスペースとして、工夫に満ちた質の高い空間が創り上げられていた。また、公共に開放された1・2階では各所で周辺環境が垣間見れる工夫がなされており、このMM21地区という都市空間が持つ魅力をわれわれに再認識させてくれた。

「洗足学園音楽大学ブラックホール」は、最新の機器を備えたスタジオやレッスン室・教室などが実にコンパクトに納められているが、大胆な色彩や照明計画により閉鎖感を感じさせない。機能空間の整然とした集積の中にこそその現代性を感じ、若き学生たちの音楽への真摯な戦いの場の在り方を見た思いがした。

「寒川神社 直心庵・和楽亭・方徳資料館」は、神社本殿奥の神嶽山の脇に新しく整備された小さな神苑の中の建物群である。神苑は2段となった池を中心とした見事な池泉回遊式庭園となっており、建物群は庭屋一如の思想のもと、静謐なたたずまいを持っていた。

「西武学園文庫幼稚園」では、入り口周りのスロープの折れ曲がる空間が、敷地の持つ高い段差をプラスに変じ、おおらかな空間を持つこの幼稚園に楽しい活気を与えていた。また、建物自身のボリュームを感じさせず、周辺住宅地と調和していた。

「象の鼻テラス」は、横浜開港の原点である象の鼻を中心とした象の鼻パークと一体的に設計された多目的レストハウスである。室内や屋上をはじめ至るところで、パーク及び周辺の景観的・空間的なポテンシャルが十分に味わえるばかりでなく、様々な文化芸術活動が誘発されるような工夫が凝らされていた。

「さくらい保育園」は、子どもの楽しい遊びを誘う空間に満ちており、子ども、父母、保育士の3者の緊密な連携を感じさせてくれる保育園であった。

アピール賞の「ベイサイドマリーナホテル横浜」は、白く塗られたコンテナという無機的な箱が散在して置かれた様が、周辺地域にふさわしい新しい海浜風景を創り出していた。

同じく「旧伊藤博文金沢別邸」は、茅葺屋根の田舎家風意匠をもつ海浜別荘建築で、取り壊されていた部分も含めて、明治期の創建当時のままに忠実に復元された貴重な遺構と評価できた。